

小1プロブレムを予防する保育所・幼稚園から小学校への接続カリキュラム開発

— 年長アプローチカリキュラムと小1スタートカリキュラム —

三浦光哉¹ 大村一史² 大江啓賢²

(1 山形大学大学院教育実践研究科 2 山形大学地域教育文化学部)

<要 旨>

本研究の目的は、小学校入学時で不適応状況が指摘されている「小1プロブレム」を予防するために、保幼小の連携強化を図りながら接続カリキュラム（年長アプローチカリキュラム、小1スタートカリキュラム）を開発し適用することである。さらに、その効果を検証する。

研究方法は、接続カリキュラムを開発するにあたり、モデル校園を選定し、従来実施してきたカリキュラムを見直し、スムーズな移行と小1プロブレム予防の視点から、保育所・幼稚園では年長アプローチカリキュラム、小学校では小1スタートカリキュラムを新たに作成することにした。

その結果、年長アプローチカリキュラムでは、新たに小学校の教科学習につながるような40題材を作成し、それを保育活動の中に取り入れた。一方、小1スタートカリキュラムでは、これまでの教科の枠を取り外して生活科を核にした合科的な学習とし、1単位時間（45分）を15分や30分のモジュール型に組み換えるとともに、国語・算数の教科、学校生活のルール、仲間づくりの3つの視点を取り入れた。そして、この接続カリキュラムを適用することにより、小学校入学後に不適応が予想される児童に対して効果的であったことが明らかとなった。

<キーワード> 小1プロブレム、カリキュラム、発達障害児、保育所、幼稚園、小学校

【はじめに】

近年、小学校入学後の児童らが、授業中に立ち歩く、教室から出て行く、教師の話を集中して聞けない、友達との関係が上手にとれない、学習についていけない、登校渋りが見られるなど、「小1プロブレム」の問題が指摘されている（文部科学省，2014；三浦・井上，2013など）。その要因については、基本的な生活習慣の問題、家庭の教育観の多様化や教育力の低下、心と体の成長・発達の変化、新たな対人関係の形成の難しさ、発達障害児への不適切な対応、保育所・幼稚園と小学校の教育（保育）内容・方法の違い等が取り沙

汰されている（汐見，2013など）。東京都内公立小学校における小1問題の調査（2010）では、不適応状況の発生率が18.2%と報告されており、現在、我が国の教育における最重要課題の一つとなっている。

このような小1プロブレムの対応策の一つとして、保育所・幼稚園や小学校では、保幼小の連携強化やカリキュラムの見直しを始めている。保幼小の連携については従前から行われているものの、保幼小の接続カリキュラム（年長アプローチカリキュラム、小1スタートカリキュラム）については、取り組みが

始まったばかりである。これまで報告された接続カリキュラムは、それぞれの保育所・幼稚園、小学校が独自に「試みとして作成した」ものがほとんどであり、研究として取り組んだものではない。また、その接続カリキュラムの適用による実証も示されていない段階である。僅かに、三浦（2015）が報告しているが、1事例のみの報告で実証の域に達していない。

そこで、この「小1プロブレム」を解決するための方策として、保育所・幼稚園から小学校へとスムーズに接続させるための新たなカリキュラム（教科学習の内容、指導時間、教材教具、指導体制など）が必要と考える。本研究の目的は、山形大学、モデル校園、教育委員会等の三者で協働しながら、保育所・幼稚園から小学校への効果的な接続カリキュラム（年長アプローチカリキュラム、小1スタートカリキュラム）を開発する。さらに、このカリキュラムを保育所・幼稚園、小学校で適用することにより、発達障害児などの年長児が小学校に進学する際にスムーズな移行ができることを実証する。

【方法】

1. プロジェクトチームの組織と役割

接続カリキュラムを開発するにあたり、「年長アプローチカリキュラム開発チーム」と「小1スタートカリキュラム開発チーム」を組織する。前者は、年長担任・園長・保育士主任・保健師・福祉課担当・大学教授・特別支援教育士・音楽療法士などで構成する。役割は、年長カリキュラムの課題調査、アプローチカリキュラムの開発と実践である。後者は、1年担任・校長・特別支援教育コーディネーター・養護教諭・教育委員会指導主事・大学教

授・臨床心理士などで構成する。役割は、小1年カリキュラムの課題調査、スタートカリキュラムの開発と実践である。

2. モデル校園の選定

研究を進めるにあたって、以下の8つのモデル校園を選定する。

- ・山形県「天童幼稚園－天童中部小学校」
- ・山形県「あたごこども園－向町小学校」
- ・岐阜県「那加幼稚園－那加第二小学校」
- ・徳島県「わじきこども育園－鷲敷小学校」

3. 年長アプローチカリキュラムの開発と実践

モデル園では、音楽療法士や保健師などの専門家を活用しながら年長アプローチカリキュラムを開発する。また、12月に公開保育（年長）や公開シンポジウムを実施するとともに、1月から年長アプローチカリキュラムに沿って実践する。

4. 小1スタートカリキュラムの開発と実践

モデル校では、大学教授や指導主事などの専門家を活用しながら、小1スタートカリキュラムを開発する。そして、入学当初に小1スタートカリキュラムに沿って実践する。

5. 接続カリキュラムの分析と検証

年長アプローチカリキュラムが効果的であるかについては、小学校入学後に特別支援教育専門家チームのスクリーニングにより、年長アプローチカリキュラムを適用した児童と適用しない児童との比較により調査する。検証する幼稚園と小学校は、上記のモデル校園から選定する。

【実践経過と結果】

1. 接続カリキュラムの開発

(1) 年長アプローチカリキュラム

年長アプローチカリキュラムの特徴は、保育所・幼稚園から小学校への移行をスムーズにするために、小学校の教育内容や教育方法に近づけていくことにある。そこで、これまで1月～3月にかけて取り組んできた保育活動の内容（卒園式の練習など）のカリキュラムを見直し、小学校の教科学習等を意識した保育活動を新たに導入・展開することで、年長アプローチカリキュラムを開発した。

【事例1：X幼稚園における年長アプローチカリキュラムの特徴と実践】

① 従来のカリキュラムの再検討

モデル園の1つであるX幼稚園では、これまで幼稚園教育要領で示されている「人間関係・言葉・環境・表現・健康」の5領域と「仏教の精神」に則ってカリキュラムを編成してきた。その内容は、月毎にねらいを示し、それぞれの保育士がそのねらいにそって自由裁量で保育活動を実施してきた。この保育活動では、小学校の教科を意識した取り組みが薄く、園児の実態に寄り添った自由保育を中心としたものであった。そのため、小学校入学後に不適応を示す児童が多く出現し、小学校側からもその対応の改善を指摘されていた。また、X幼稚園では、その実情を理解しつつも、カリキュラム改善までには至らなかった。そこで、本研究をきっかけとして、従来のカリキュラムを見直し、新たなカリキュラムを開発することにした。

② 従来のカリキュラムの再検討

表1には、X幼稚園における1月～3月ま

での年長アプローチカリキュラムを示した。年長アプローチカリキュラムでは、ねらいと経営方針は変更しないものの、小学校の教科学習や生活につながうような新たな保育活動の題材の導入、保育活動でのグループ編成、それぞれの保育活動での適切な時間変更を実施した。

新たな保育活動の題材では、表2に示している『小1プロブレムを防ぐ保育活動』（三浦ら, 2013）を参考にしながら保育活動プログラム40題材を取り入れることにした。そして、遊びの活動を通して、教科学習（国語・算数・生活・音楽・図画工作・体育など）の基礎づくりや、ルールの理解、コミュニケーション、友だちとの関わり等を中心とした保育活動を展開することとした。

③ 年長アプローチカリキュラムの実践

X幼稚園の年長アプローチカリキュラムの実践では、5歳年長児（24人×3学級）を新たに課題別に3クラス（1組、2組、3組）に再編成した。1組は、外交的で活発、理解が早くすぐに発表しようとする、友達の意見を遮るタイプとした。2組は、内向的で穏やか、対人関係が希薄、あまり人前で話さないタイプとした。3組は、行動面や知的面で遅れがち、時間をかけて覚えるタイプとした。このグループ編成の方が、園児の特性や能力差に応じた保育活動ができると考えたからである。活動時間では、小学校に合わせて45～60分間とした。指導者（保育士）は、学級担任が課題別の担当となった。

例えば、保育活動プログラム40題材のうち、「数を教えよう」の活動案では、保育活動全体のねらいは「数字を全園児同じであるが、到達目標が異なり、1組はカレンダーを

使用して 30 までの数、2 組は時計を使って 12 までの数、3 組は曜日を使って 7 までの数とした。このように、40 題材の保育プログラムを 1 月～3 月の 3 ヶ月間で実施した。

(2) 小 1 スタートカリキュラム

小 1 スタートカリキュラムの特徴は、保育所・幼稚園から小学校に入学してきた児童をスムーズに小学校の生活に適應させることである。そこで、小学校入学時から 3 カ月間は、小学校の学習スタイルが保育所・幼稚園の保育スタイルと大きく異なることから、両者の時間割を比較しながら学習や活動時間をモジュール (15 分～30 分) にするなど、集中して取り組めるような小 1 スタートカリキュラムを開発した。

【事例 2：Y 小学校におけるスタートカリキュラム特徴と実践】

① 小 1 スタートカリキュラムの再検討

表 3 には、モデル校の 1 つである Y 小学校における 4 月～6 月までの小 1 スタートカリキュラムを示した。Y 小学校では、これまでの時期にどの単元を実施すればよいか分かるように、単元配列したカリキュラムを使用していた。しかし、集団として行う学習習慣や生活習慣の形成、これからの小学校生活にとって必要な力を育成するという視点が欠けていた。そこで、単元や題材・配当時間等を見直し、単元・題材または 1 単位時間の中で複数の教科の目標や内容を組み合わせて、児童が具体的かつ総合的に学習できるよう工夫した。また、児童の興味・関心を大切に、幼児期に育った学びの芽を小学校の学習へつないでいけるように心掛けた。さらに、授業の中に遊びの要素や身体活動を取り入れ

たり、絵本などの教材や児童が操作できる教具を使ったりするなど、国語や算数等の教科の学習においても、児童の興味・関心を高める学習の工夫をした。

② 小 1 スタートカリキュラムの内容

Y 小学校では、複数の教科の目標や内容を組み合わせてテーマ学習を設定し、生活科を核にした合科的な学習を取り入れていくことにした。また、小学校での学習や生活に適應していくために、以下の 3 つの視点から適應学習計画を立てた。

適應学習Ⅰでは、「読む・書く・話す・数える」等の学習とした。適應学習Ⅱでは、「学校生活の仕方等」の学習とし、学校生活のルールを知り、安心・安定した生活を送ることができるようにした。適應学習Ⅲでは、「仲間づくり」の学習とし、友達との良好な関係を築き、安心・安定した気持ちで生活を送ることができるようにした。

その他、授業時間にも配慮し、朝の活動や給食などの時間を増やしたり、1 単位時間 (45 分間) を 15 分、20 分、30 分などに区切って活動することにした。

③ 小 1 スタートカリキュラムの実践

Y 小学校では、新たな取り組みやカリキュラムを一から作成していくと捉えるのではなく、これまで 1 年生の担任がしてきた様々な工夫や配慮を明記していくという考え方を大切にした。そこで、入学当初では、3 つの視点からを適應学習に取り組んだ。1 つ目は、学校の生活時程や校舎内の様子、きまりやルールに慣れるための活動を工夫し、児童が学校生活に対して安心感をもてるようにした。

2 つ目は、幼児期の教育との接続を意識した

授業等の工夫をすることで、各教科等の学習に意欲的に取り組むことができるようにした。3つ目は、新しい先生との出会いや友達のかかわりを楽しむ活動を通し、学習や生活の基盤となる学級集団をつくり、新しい集団の中で人間関係を築いたり、新しいルールを受け入れ自己発揮したりすることができるよう心がけた。その他には、集団としての特徴から「いきいきタイム」で取り扱う内容を考え、実態に応じたカリキュラムにした。また、カリキュラム表の下欄には、「特別な支援を要する児童への配慮」を明記し、一人一人の育ちを大切にしたい、きめ細やかな支援を行っていくようにした。

2. 接続カリキュラムの効果検証

モデル園で接続カリキュラム（年長アプローチカリキュラム）を適用してきた園児が小学校に入学してから安定した学校生活を送ることができるかについての効果検証の調査をした。調査時期は、小学校に入学してから2ヶ月後の6月中であった。調査対象は、X幼稚園でアプローチカリキュラムを適応した児童（以下、適用児と称す）と、適用しなかった児童（以下、一般児と称す）とし、両者を比較検討した。

調査の基準は、特別支援教育専門家チーム（以下、専門家チームと称す）のスクリーニングにより児童の不適応状況や実態を7段階（S・A・B・BC・C・CD・D）に分けた（表4）。この基準の中では、「B」と「BC」段階が発達障害（学習障害、注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム障害）等の疑いがあり、不適応状況を示していることになる。「S」段階は既に医師の診断や薬物治療を受けており、また、「A」段階も既に個別検査や障害判断を受

けていて、ある程度適応していると解釈した。

表5には、M小学校とN小学校の2つの小学校において、特別支援教育専門家チームがスクリーニングした結果を示した。なお、スクリーニングにあたっては、児童の出身保育園・幼稚園が分からないようにした。また、専門家チームは3人でそれぞれに判断し、後で合意して最終的に判断した。

その結果、2つの小学校の合計において、適用児は44人中4人（9.1%）が「B」と「BC」段階の不適応状況、一般児は108人中49人（27.2%）が「B」と「BC」段階の不適応状況であった。適用児は、一般児に比べ不適応状況が3分の1であることが明らかとなった。つまり、接続カリキュラム（年長アプローチカリキュラム）は、効果的であったことが示唆された。

表1 年長アプローチカリキュラム (X幼稚園)

項目	月	1月	学習 教科	2月	学習 教科	3月	学習 教科
人間関係	ねらい	編成された組(学校ごっこ)の仲間と仲良く接する		誰にでも得手不得手があることに気づき、互いに補い合って行動する		これまで関わってきた人たちに感謝の気持ちを伝える	
	内容	・就学の期待をもち、クラス外の友だちと一緒に活動することを楽しむ。	①	・個々に得手不得手があることに気づき、互いに補い合って行動する。	⑮	・友だちとのかかわりを深め、思いやりのある行動をする。	⑩
		・学校ごっこの組で、様々な決まりを守りながら活動する。	⑳			⑨	・共同の遊具や道具に感謝の気持ちをもって、みんなで大切に扱う。
	・学校ごっこを通して、物事をやり遂げる気持ちを持つ。	㉒					
言葉	ねらい	自分の気持ちを誰にでも伝える		互いに他者の気持ちを考え、お互いに話を聞いて伝え合う		これまで関わってきた人たちに感謝の気持ちを伝える	
	内容	・自分の思いを伝えると共に、友達の思いや気持ちに気づく。	①	・言葉の大切さを感じて、「聞く」・「伝える」ことの楽しさを知る。	④	・親に、感謝の気持ちをこめて手紙を書いたり、言葉で伝える。	⑧
		・様々な活動を通して、イメージや言葉のやり取りを楽しみながら学ぶ。	②	・話をよく聞き、文字などで伝える楽しさを味わう。	⑥・⑦	・卒園式で、皆と一緒に感謝の気持ちを伝える。	④
	・絵本や物語に親しみ、文字や内容に興味をもって活動する。	③	・皆で楽しく言葉遊びを体験しながらイメージや言葉を豊かにする。	⑧・⑩			
健康	ねらい	友達と励まし合い、目的意識をもって様々な遊びに挑戦する		ルールを守って、皆で協力して楽しく遊ぶ		就学に向けてより安全を意識して、思い切り活動する。	
	内容	・様々な活動の中を意欲的に行う。	⑦	・寒さに負けず、思い切り体を使って遊ぶ。	⑮	・場所や状況に応じて、安全を考えて行動する。	⑳・㉑
		・遊びや活動を通して、満足感や達成感を味わう		⑲	・卒園カレンダーを皆で作り、健康に留意して卒園までの生活を楽しむ。		
	・積極的に、学校ごっこの仲間と触れ合う。		・様々な遊びをして、友だちや先生と十分に触れ合って遊ぶ。	⑳	・自分たちで生活の場を整えながら、見通しをもって行動する。		
表現	ねらい	音楽に親しみ、歌をうたったり、イメージを共有して楽しむ		自分の思いを伝えたり、人の話を聞こうとする(うなづく)		これまでを振り返り、思い出を伝え合う。	
	内容	・友だちと共有感を持ちながら、イメージを膨らませ互いに表現し合う。	⑮	・色、形、部位などに関心を持ち、表現の仕方を楽しむ	⑳	・幼稚園でお世話になった方々を思い感謝の気持ちを伝える。	㉒
		・音楽に親しみ、五感や心をふるわせながら楽しく活動する。	⑳・㉑	・じっくりと見たり、聞いたりしながら、様々な表現を楽しむ	⑩・⑳		
	・感じたり、考えたことを音や動きで表現したり、かいたりつくったりする。	㉒・㉓	・素材に親しみ、工夫して遊ぶ。	⑭			
環境	ねらい	日本の伝統文化に触れ、季節の行事を楽しむ		冬の自然現象に興味関心を持ち、遊びを工夫して楽しむ		卒園に向けて、自分たちのできることを考えて行動する。	
	内容	・お正月の年賀状や福笑い、かるた、すごろくなど等の伝統文化に触れ、皆で楽しく親しむ。	⑨・⑬	・雪の結晶や氷づくりなどの形に変化に関心をもって遊ぶ	⑩	・幼稚園で使用したモノに愛着を持ちきれいに掃除をして感謝の気持ちを伝える。	
				・雪の結晶や氷づくりなどの形に変化に関心をもって遊ぶ	⑲		
			・○△□などの図形の楽しさに気づき意欲的に書いたり作ったりする	⑪	・私用・共有物を分け隔てなく、大切に扱う		
心の教育・道徳	ねらい	遊びを通して、友だちや自分の存在が生かされていることを知る		人と仲良く過ごしたり、助け合うことに喜びを感じる		卒園を前に、これまでの成長に感謝の気持ちを持つ。	
	内容	・友だちとの触れ合いを通して、ぬくもりや楽しさ、嬉しさを感じる。	⑳	・人と触れ合いながら、嬉しさ・楽しさ・寂しさ・などを感じる。		・親やこれまで接してきた人・モノに感謝の気持ちを持つ。	
						・自分で出来る手伝いや役に立てることを考えて行動する。	
					・自分の生き立ちを考え、自らの成長を喜ぶ。		

*数字の番号は、『小1プロブレムを防ぐ保育活動』(三浦, 2013)の題材番号である。

表2 保育活動プログラムの40題材一覧

題 材 名	保育所・幼稚園の領域	小学校の教科	引き出す能力
①自己紹介をしよう	人間関係（言葉・表現）	国語（生活）	話す、聞く、人との関わり、表現力、
②宅配便ごっこをしよう	人間関係（言葉・表現）	国語（生活）	話す、聞く、役割分担、平仮名の理解、書く
③どんなお話だったかな？	言葉（表現）	国語（生活）	集中力、想像力、記憶力、話す
④言葉を聞いて伝えよう	言葉（表現）	国語（生活）	記憶力、集中力、伝達能力、話す
⑤反対の言葉を考えよう	言葉（表現）	国語（生活）	対語の理解、表現力、想像力
⑥鉛筆で書いてみよう	環境（言葉）	国語（生活）	書く、筆圧、鉛筆の持ち方、運筆、微細運動
⑦平仮名と自分の名前	環境（言葉）	国語（算数）	平仮名の理解、左右の区別、数字理解
⑧いろいろな言葉を作ろう	環境（言葉）	国語（生活）	平仮名の理解、物の知識、友だちとの協力
⑨小学校カルタをしよう	環境（言葉・人間関係）	国語（生活）	平仮名の理解、集中力、判断力、数字理解
⑩数字を数えよう	環境（言葉）	算数（生活）	数唱、数字理解、左右の区別
⑪丸、三角、四角はどれ？	環境（言葉・表現）	算数（生活）	形の区別、聞く、見る、想像力
⑫大きい、小さいのはどっち？	環境（言葉・表現）	算数（生活）	大きさの比較、聞く、見る、想像力
⑬高い、低いのはどっち？	環境（言葉・表現）	算数（生活）	高さの比較、聞く、見る、想像力
⑭長い、短いのはどっち？	環境（言葉・表現）	算数（生活）	長さの比較、聞く、見る、想像力
⑮速い、遅いのはどっち？	環境（言葉・表現）	算数（生活）	速さの比較、聞く、見る、想像力
⑯重い、軽いのはどっち？	環境（言葉・表現）	算数（生活）	重さの比較、聞く、見る、想像力
⑰観察して仲間分けしよう	環境（言葉・表現）	生活（国語）	観察力、想像力、物の知識、動植物の区別
⑱3つのヒントで当てよう	環境（言葉・表現）	生活（国語）	抑制力、想像力、表現力、物の知識
⑲朝、昼、夜の区別をしよう	環境（言葉・表現）	生活（算数）	自然現象、時間、時計、物の知識
⑳箸で上手につまめるかな？	健康（人間関係）	給食（算数）	集中力、箸の持ち方、数字理解、協応動作
㉑手遊びをしよう	人間関係（表現）	音楽（生活）	関わり、勝敗の理解、歌唱
㉒音階を色で覚えよう	表現（言葉）	音楽（図工）	音階の理解、色の区別、音感、歌唱
㉓楽器の名前を覚えよう	表現（言葉）	音楽（生活）	楽器の知識、記憶力、歌唱
㉔大きい音、小さい音	表現（言葉）	音楽（生活）	大小の区別、リズム感、歌唱、想像力
㉕どんなパンがあったかな？	表現（言葉）	音楽（生活）	記憶力、リズム感、歌唱
㉖丸から何ができるかな？	表現（言葉・環境）	算数（図工）	想像力、数唱、数の概念、色の区別、歌唱
㉗友達顔やいろいろな物を見て描こう	表現（人間関係）	図工（生活）	描写、空間認知、見る
㉘5日間同じ絵を描こう	表現（言葉）	図工（生活）	描写、空間認知、見る、比較
㉙順番を守って皆で一つの絵を描こう	表現（人間関係・環境）	図工（生活）	ルールの理解、見る、聞く、集中力、抑制力、着席行動
㉚人や色を制限しながら皆で一つの絵を描こう	表現（人間関係・環境）	図工（生活）	ルールの理解、見る、集中力、抑制力
㉛どんな形や物ができるかな？	表現（人間関係・環境）	図工（算数）	空間配置、手と目の協応動作、模倣、
㉜形をまねして書こう	表現（環境）	図工（算数）	模倣、空間認知、手と目の協応動作、書く
㉝何を描いたのかな？	表現（言葉・環境）	図工（生活）	色の区別、空間配置、左右の区別、想像力
㉞ハサミで切ってみよう	表現（環境）	図工（生活）	ハサミ使用、協応動作、微細運動、集中力
㉟作って遊ぼう	表現（人間関係・環境）	図工（生活）	速さの比較、聞く、見る、想像力、関わり
㊱いろいろな運動をしよう	健康（人間関係・環境）	体育（生活）	粗大運動、ルール理解、器械運動、平衡感覚
㊲マット当て名人はだれ？	健康（人間関係・環境）	体育（生活）	粗大運動、集中力、ルールの理解、承認
㊳昔からの遊びをしよう	健康（人間関係・環境）	体育（生活）	微細運動、粗大運動、空間認知、関わり
㊴ルールを守って遊ぼう	健康（言葉・人間関係）	体育（音楽）	ルールの理解、友だちへの応援、賞賛
㊵自分のことを知って遊ぼう	健康（言葉・人間関係）	体育（音楽）	ルールの理解、自己理解、譲り合い、機敏性

出典：『小1プロブレムを防ぐ保育活動』、クリエイツかもがわ、（三浦、2013）

表3 小1スタートカリキュラム (Y小学校)

適応学習Ⅰ (学習)

A お話玉手箱 (読み)	B しっかり書こう (書き)	C 1, 2のさんすう
①教師や地域の方の読み聞かせ ・読書アニメーション ②簡単な詩を暗唱する	①文字を習い、言葉を覚える ・あいうえお ~ わをん	①数える、数字で書く ②いくつといくつ ③何番目 ④時計の見方 (時刻)

適応学習Ⅰ (国語科) の事例 30分×29回

A お話玉手箱 (●読み)		B しっかり書こう (○書き)	
① 「おはなしききたいな、よみたいな」 ●読み聞かせ → お絵かき ・気に入った場面や人物を描く	⑤	●詩 (リズム詩) の暗唱 ・時間内で暗唱できるもの	
② ●読み聞かせ → クイズ ・読書アニメーション	⑥ ~ ⑳	○鉛筆の持ち方 (いろいろな線) ・鉛筆の持ち方・書く姿勢 ○ひらがなの書き方 ・自分の名前を書いてみよう (1回) ・形のにている字 (1回) ・絵に合う言葉を書く (1回) ・言葉集め ※ 6月末までに46文字を学習する	
③ ●読み聞かせ → 主人公に質問 ・読書アニメーション			
④ ●読み聞かせ → お絵かき ・気に入った場面や人物を描く			

適応学習Ⅰ (算数科) の事例 30分×16回

C 1, 2のさんすう			
① ○ならべよう (5まで) ・数字をおはじきに置き換える ・数字の練習、数を聞いて書く	⑨	○いくつといくつ (9) ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	
② ○いくつといくつ (5まで) ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	⑩	○いくつといくつ (10) ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	
③ ○4をさがそう or 3・2 ・身の回りから4で1組を探す ・紹介し合う	⑪	○6をさがそう or 8・10 ・身の回りから6で1組を探す ・紹介し合う	
④ ○ならべよう (10まで) ・数字をおはじきに置き換える ⑤ ○数の練習、数を聞いて書く	⑫	○かぞえよう (タンブリンの音) ・聞いて当てる、数を書く	
⑥ ○いくつといくつ (6) ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	⑬	○どっちが大きいかな ・教師対子ども、子ども同士	
⑦ ○いくつといくつ (7) ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	⑭	○わたしは前から何番目 ・後ろ・右・左から…	
⑧ ○いくつといくつ (8) ・おはじきを両手に握る ・ペアでゲーム、シートに書く	⑮	○前からいくつと何番目	
	⑯	○ねるじかん・おきるじかん ・生活に結びついた時刻	

適応学習Ⅱ (生活) 15分×24回 「学校生活のルールを知り、安心・安定した生活を送ることができる」

小学校生活 適応のための学習	
①	学校に来たら…あいさつの仕方 (15分) 下足棚・雨具掛けの使い方 (15分) ロッカー引き出しなどの使い方 (15分) 運動着の着替え方・しまい方 (15分)
②	学校の行き帰り…通学班・集合場所での待ち方・下校の仕方 (15分×2)
③	楽しい給食…身支度・手を洗う・静かに・歯磨きの仕方 (15分×3)
④	学校生活の約束…廊下・階段の歩き方 (15分) トイレの使い方 (15分) 体育館・遊具での遊び方 (15分)
⑤	学校をきれいに…掃除の仕方 (15分×2)
⑥	交通事故に気をつけよう…交通安全教室の事前・事後指導 (15分) 副読本での指導 (15分)
⑦	火事や地震が起きたら…避難訓練の事前・事後指導 (15分×2)
⑧	不審者であったら…不審者対応訓練の事前・事後指導 (15分×2)
⑨	学校周りの危険箇所、安全な生活について… (15分×2)
⑩	図書室の使い方・本の借り方返し方… (15分×2)

適応学習Ⅲ (仲間) 30分×9回 「友だちとの良好な関係を築き、安心・安定した気持ちで生活を送ることができる」

好ましい人間関係をつくる活動	
①	朝と帰りのあいさつ・自己紹介
②	ゲーム1 (動物じゃんけん 例; ネズミー→ワトリー→ネコ→ワニ 勝つと1つ上がる 動物の身振り)
③	ゲーム2 (質問じゃんけん ペアに対戦 勝った人が質問して相手が答える)
④	ゲーム3 (フルーツバスケット 好きなもの誕生日)
⑤	上級生と一緒に校歌を歌おう
⑥	ゲーム4 (王様じゃんけん ①負けたら後ろに並ぶ ②リーダー(王様)と対戦して負けたら座る)
⑦	ゲーム5 (空飛ぶじゅうたん (人口過密) 1枚の新聞紙で何人立てるかを競う)
⑧	ゲーム6 (名刺交換ゲーム)
⑨	ゲーム7 (グループじゃんけん 3~5人グループで対戦 脚でやる方法)

表4 特別支援教育専門家チームのスクリーニング基準

段階	スクリーニング基準の内容および実態
S	・医療受診をして医師の診断がある。服薬をしている。
A	・個別検査をして専門家チームの判断がある。通級指導教室で指導している。
B	・発達障害等の疑いがある。困難性が極めて大きい。
B C	・発達障害等の疑いがある。困難性がある。
C	・発達障害はない。気質や傾向がある。何らかの配慮が必要である。
C D	・発達障害はない。気質や傾向が少ない。配慮も少ない。
D	・特に問題がない。

表5 専門家チームのスクリーニング状況（人数）

段階	M小学校		N小学校		合計	
	一般児91	適用児30	一般児89	適用児14	一般児180	適用児44
S	4	1	1	0	5 (2.8)	1 (2.3)
A	3	6	4	3	7 (3.9)	9 (20.5)
B	19	1	11	2	30 (16.6)	3 (6.8)
B C	11	1	8	0	19 (10.6)	1 (2.3)
C	14	6	16	0	30 (16.6)	6 (13.6)
C D	6	3	8	2	14 (7.8)	5 (11.4)
D	34	12	41	7	75 (41.7)	19 (43.1)

％は不適応出現率

【考察】

1. 接続カリキュラムについて

年長児が小学1年生に進学した際に、スムーズな移行ができるためには、保育所・幼稚園の保育活動と小学校の教科学習に連続性・関連性がなければならぬ。しかし、これまでの保育所・幼稚園では、カリキュラムを作成する際には、保育所保育指針や幼稚園教育要領の5領域を基本とするものの、小学校の教科学習を見据えて作成しようとする意識が少なかったのではないだろうか。そのために、カリキュラムの内容が分断され、その一つに「小1プロブレム」が起きているのではないかと推測する。5領域の「環境」や「言葉」の中には、小学校で学習する文字、数量、図形、日常生活に必要な言葉などに興味や関心を持ったり経験することが述べられているが、これらの内容を保育者が毎日の保育活動の中で活用できていないのではないかと考える。

本研究では、保育所・幼稚園の保育活動と

小学校の教科等を連続性・関連性のある内容とした。そのためには、年長児の保育活動の中で1つ1つの題材が、保育所・幼稚園での領域を重視し、それが小学校においてどの教科に結びつくのかを明確にする必要があった。そこで、最初に、小学校1学年において6教科2領域（国語、生活、算数、音楽、図画工作、体育、道徳、特別活動）を学習するので、その教科領域に関連する40題材を考案した。次に、各題材の保育活動では、小学校においてどのような能力を引き出すのかについて明記することにした。この引き出す能力では、特に学習障害・注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム障害などの発達障害児が示す課題についての改善も含んでいる（例えば、読み・書き・計算の困難性に対する筆圧、視知覚認知、空間認知、巧緻性、数唱、数の理解など。多動性・衝動性の困難性に対する持続力、集中力、抑制力など。社会性・想像性の困難性に対する対人関係、コミュニケー

ションなど)。さらに、各題材の指導例、使用する教材教具、実施上の留意点、活動時間、活動編成、活動のバリエーションなども考案した。そして開発したのが、「年長アプローチカリキュラム」である。このカリキュラムの適用により、小学校入学後の不適応を少しでも改善できるものとする。

一方、入学後の小学校では、学校生活に不適応を起こさないために、複数の教科の目標や内容を組み合わせてテーマ学習を設定することにした。そして、「読む・書く・話す・数える」、「学校生活の仕方等」、「仲間づくり」、といった新たな学習である小1スタートカリキュラムとして開発した。授業時間も1単位時間(45分間)を15分、20分、30分などに区切って活動して短時間で授業を展開することにした。このようなことは、保育所・幼稚園の活動時間に近づけて集中力が途切れないように適応させる方法であるとする。

2. 接続カリキュラムの効果について

本研究では、接続カリキュラム(年長アプローチカリキュラム)の効果を明らかにするために、小学校入学後に年長アプローチカリキュラムで「小1プロブレムを防ぐ保育活動」を実施した適用児が、適用していない一般児と比較して差異があるかを検討した。

小学校入学後に専門家チームがスクリーニング判断した結果、一般児は適用児と比較して、発達障害の疑いが指摘された「B」と「BC」段階の割合が約3倍となった。このことから、年長アプローチカリキュラムで「小1プロブレムを防ぐ保育活動」のプログラムを実施することにより、学習障害・注意欠陥多動性障害・自閉症スペクトラム障害などの発達障害、つまり、小1プロブレムの状況にまで至らず未然に食い止めることができることを示唆し

ており、それが年長アプローチカリキュラムの効果によるものと推察される。

東京都(2010)が小学校1学年で不適応の状況になっている児童が11.8%という報告をしているが、本研究の小学校1学年では9%と低かった。筆者が「特別支援教育専門家チーム」としてスクリーニングしてみると10~15%という結果があり(三浦, 2013)、1割強が妥当ではないかと推察される。この1割強の不適応状況を示す児童を少しでも改善・予防するためにも、保育所・幼稚園から小学校へ移行する接続カリキュラムの見直しが不可欠であるとともに、5歳年長児における保育活動の内容も検討する必要があるとする。

【文献】

- 汐見稔幸(2013)：本当は怖い小学一年生、ポプラ新書
- 東京都教育委員会(2010)：小1問題・中1ギャップの実態調査について
- 三浦光哉編(2013)：小1プロブレムを防ぐ保育活動(実践編)、クリエイツかもがわ
- 三浦光哉・大村一史・大江啓賢(2013)年長一小1、小6一中1の接続カリキュラムの開発と実践による幼児児童生徒のスムーズな移行支援、日本教育大学協会年報、第34集
- 三浦光哉(2015)：小1プロブレム・中1ギャップの要因とスムーズな移行、実践障害児教育 No.501、10-17、学研
- 三浦光哉・大村一史・大江啓賢(2015)：年長一小1、小6一中1の接続カリキュラムの開発と実践による幼児児童生徒のスムーズな移行支援、日本教育大学協会年報、第34集
- 文部科学省(2013)：児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査